

Limp Velum 装模型 (サンプルモデル) 作成

NPO 法人 書物の歴史と保存修復に関する研究会

講師・研究員 藤井かおり

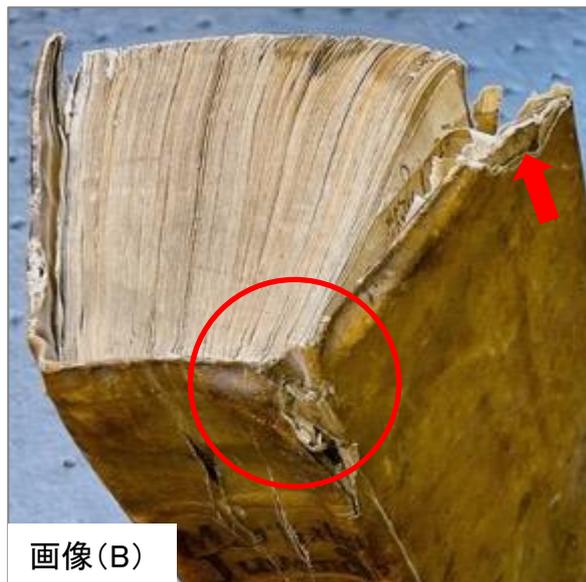


事前調査

- 1716年イタリア・ヴェネツィアで印行されたリンプヴェラム装の現物を観察し模型を作成
- サイズ：縦 155mm×横 80mm×束 40mm
- コードは 4mm 幅ほどの白革 4 本、短くカットされており表紙には刺さっていない【画像(A)】
- 表紙に刺さっているのは花布の芯（パーチメント）のみ【画像(B-丸枠)】
- 表紙には薄めの厚紙の芯が入っている【画像(B-矢印)】
- 表紙のパーチメントは極めて薄く、紙で裏打ちされている様子【画像(C)】
- 表紙天地のチリは各 3~4mm ほど、小口は本文同寸に見えるが縮んだと思われる
- 見返しは巻き綴じ見返し、効き見返しと遊び見返しの巻き込み部分は 3mm ほどサイズに差がある【画像(D)】
- 綴じは抜き綴じ



画像(A)



画像(B)



画像(C)



画像(D)

リンプ装について

- Limp=柔軟な、しなやかな、ぐにやぐにやした、という意味
- 羊皮紙などの柔らかい素材を表紙に使用した製本スタイル
- 早くは 14 世紀頃の帳簿に見られ、16～17 世紀頃に全盛を迎える
- 18 世紀頃には他の製本スタイルに取って代わられたが、19 世紀後半～20 世紀前半にプライベートプレスに採用され復活する
- 羊皮紙装の種類として、表紙に芯材を用いない Limp 装、硬い厚紙（ボード）を使用した Stiff-Board 装に対して、柔らかい厚紙を芯として用いた製本は、semi-limp 装という言葉で紹介されている（その多くは、厚紙が表紙の羊皮紙に接着されず「浮いている」状態）

参考資料

- J.A. Szirmai (1999) 『The Archaeology of Medieval Bookbinding』 Ashgate Publishing
※p.316 にコードの白革を短くカットした書物（イタリア・ヴェネツィア 1557 年の刻印）の写真と記述あり
- Bernard C. Middleton (1996) 『A History of English Craft Bookbinding Technique』 Oak Knoll Press p.139-43,164

参考サイト

- The Book and Paper Group Wiki (The American Institute for Conservation)
(https://www.conservation-wiki.com/wiki/BPG_Parchment_Bookbinding)
- The New York Academy of Medicine Library Blog
(<https://nyamcenterforhistory.org/2015/04/22/what-lies-beneath-semi-limp-parchment-bindings-in-the-academys-rare-book-collection-items-of-the-month/>)

材料

- 表紙…鹿皮紙（鹿のパーチメント）
※鹿皮紙プロジェクト（代表:河田 修二氏）により作成 (<https://shikahishi.shujiworks.com/>)
- 表紙芯材…1mm 厚の柔らかい厚紙
- 本文用紙… 4 枚ひと折り 20 丁（束が 40mm 程度になる丁数）
- 見返し…本文用紙 3 枚+ヨーロッパ手漉き紙 2 枚
- コード… 4～5 mm 幅の白革（今回は、姫路の白なめし革を使用）
- 花布芯…3mm 幅の羊皮紙
- 麻糸

手順

- ① 花布芯準備
- ② 本文綴じ・花布編み
- ③ 表紙芯の準備
- ④ 表紙革の準備(折り・穴あけ)
- ⑤ 結合
- ⑥ コードカット
- ⑦ 見返し貼り付け

① 花布芯準備



- ・ 薄いパーチメントを細切り（3mm 幅くらい）
- ・ 水に浸して柔らかくし、ねじる
- ・ 貼り付けて乾燥させる

② 本文綴じ・花布編み

 <p>←現物の花布</p> <p>↓作成した模型</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 現物の本文サイズ 縦 145mm×横 80mm×束 40mm・ 幅広のコードに対し、綴じ穴は一つのみ コードにスリットを入れて巻きつけながら綴じる 現物は抜き綴じだが、今回は全て本綴じで作成・ 花布は書物研究会の講座:修復基礎 1 での 15-16 世紀前後製本の花布のように 16-18 番手の太い麻糸を芯に巻き付ける方法 で作成
--	--

③ 表紙芯の準備

	<ul style="list-style-type: none">・ 今回は、片面白色の柔らかい厚紙を使用・ 天地左右、それぞれ本文用紙より 2mm ずつ大きいサイズでカット・ 四方と角をやすりがけする
--	--

④ 表紙革の準備

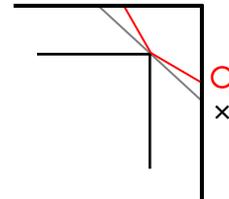
	<ul style="list-style-type: none">・ 天地小口 3 方のチリ : 各 2mm 天地の折り返し : 20mm 左右小口の折り返し : 25mm 背部分のゆとり : 15mm・ 上記を踏まえて 横 270mm×縦 195mm のサイズで切り出し
---	--



- 以下の順番で折る
 1. 天地の折り返し 20mm
 2. 背幅（気持ちゆとりを持って）
 3. 背幅の両側 4mm のところに、開きやすくするための折り筋をつける
 4. 小口の折り返し（縮むことを想定し、1~2mm のゆとりを確保）

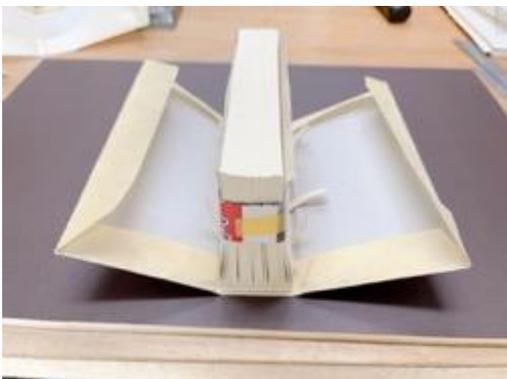


- 角→直線ではなく、やや角度をつけてカット



- 花布コードを通すための穴あけ
 （背側）天地から 3mm 程度のところ
 （平側）背側の穴から 4mm ほど離れた箇所
 ※背側→平側の穴へ 45°よりやや浅い角度をつける
 ※今回は、穴あけに 1.5mm のポンチを使用

⑤ 結合



- 表紙芯のサイズを表紙に合わせて調整して挟み込み、角の折り返しの重なりを糊付け
- 花布の芯を穴に通し、撚りを戻す
 （現物は撚ったままになっているが、そのままにしている理由が考えられないため、今回は撚りを戻して芯を平らにする）
- 花布の芯を 10mm ほど残して余分をカットし糊付け（断面に厚みが出ないように削ぎ切りする）

⑥ コードカット



- ・ コードをカットする（削ぎ切り）
- ・ 現物は、本文背のキワでカットしているが、今回はもう少し余裕を持ってカット（ただし、左の画像よりもう少し短くカットしている）

⑦ 見返し貼り付け



- ・ 見返しの縁 3 方を表紙に貼り付け
（構造が確認できるように、片方は糊付けせずそのままにしておく）

以上